

三井住友銀行グループ

 さくらケーシーエス

UTMとコントローラを統合しセキュアな無線LANを実現

三井住友銀行グループの総合情報サービス企業である株式会社さくらケーシーエス。同社では、ペーパーレス会議の推進や営業支援のツールとしてタブレット端末 (iPad) を活用。その通信インフラとして、ファイアウォールなどのセキュリティ機能と無線LANコントローラ機能を統合したフォーティネットのUTMアプリケーション「FortiGate」及び無線LANアクセスポイント「FortiAP」を導入。複数拠点のAPの一括管理、ポリシーベースのアクセス制御など、セキュアな無線LANを実現している。

株式会社さくらケーシーエス

本社 兵庫県神戸市中央区播磨町21-1
 設立 1969年3月
 資本金 20億5,460万円
 従業員数 1,144名
 (2014年4月1日現在、連結)

神戸における「地域の計算センター」としての創業以来、技術の高度化と事業領域の積極的な拡大を図り、金融・公共・産業にわたる幅広い分野で、都市型データセンターを起点としたさまざまな情報サービスの提供を通じて、お客さまのIT化を支援している。

<http://www.kcs.co.jp/>



株式会社さくらケーシーエス
 事業推進部 技術統括部
 情報戦略グループ
 グループ長
石若 通利氏



株式会社さくらケーシーエス
 事業推進部 技術統括部
 情報戦略グループ
 リーダー
伊藤 研吾氏



株式会社さくらケーシーエス
 事業推進部 技術統括部
 情報戦略グループ
田畑 秀之氏

導入・構築のポイント

- (1) セキュリティ機能に加え、無線LANコントローラ機能を備えた「FortiGate」により、セキュアな無線LANを実現
- (2) 複数のリモート拠点に設置された無線LANアクセスポイント「FortiAP」を一括管理
- (3) 無線LAN導入の要件となる高いコストパフォーマンスを発揮

iPadと無線LANの活用でペーパーレス会議を推進

さくらケーシーエスは、神戸市内に設置された都市型データセンターを基盤に、コンサルティング、システムインテグレーション、業種・業務ソリューション、ビジネスプロセスアウトソーシング、ICT基盤ソリューションなどを総合的に提供する「ワンストップ・ソリューション」体制を確立し、顧客企業のIT化を支援している。

同社では独自のスタイルでシステムを提案。例えば、企業の関心が高いタブレット端末について、「まず、自社でタブレット端末を導入し、使い勝手を自ら検証した上でお客様に最適なソリューションを提案しています。社内でiPadと無線LANを活用しているのも、その一例です」と話すのは、さくらケーシーエスの社内情報システムの企画・立案などを担う情報戦略グループの石若通利氏だ。

同社ではペーパーレス会議を推進するため、タブレット端末の導入をトップダウンで決断。まず、部長職以上にiPadを支給したのを皮切りに、グループ長、そして営業職

へ営業支援ツールとして活用の範囲を拡大してきた。そして、本社、東京本社、大阪支社など6拠点で約230台のiPadが利用されている(2014年3月末現在)。

同社は総合情報サービス企業として、情報セキュリティ対策に留意してきた。プライバシーマーク取得や、アウトソーシングセンターにおける情報セキュリティの国際規格ISO27001取得のほか、社内体制の整備にも力を入れており、「セキュリティポリシーを定め、社内システムの導入・運用を行っています」と石若氏は情報セキュリティの取り組みを述べる。

セキュリティやAP一括管理の要件を満たしたFortiGateを導入

iPadの社内利用に欠かせない無線LANシステム(無線LANコントローラ、AP)の選定についても、セキュリティ機能を重視。複数ベンダーの無線LANシステムを比較・検討した結果、無線LANコントローラを標準搭載したフォーティネットのUTMアプリケーション「FortiGate-100D」及び無線LANアクセスポイント「FortiAP-220B/221B」を導入した。

その決め手について、情報戦略グループの伊藤研吾氏は「他社製品に比べ、セキュリティ機能が充実していることや、コストパフォーマンスが高いこと、そして短納期だったこと」と振り返る。そして、情報戦略グループの田畑秀之氏は「iPadからのアクセスを制御する上でファイアウォール機能が不可欠です。また、導入後の運用を考慮すると、多数のAPをリモートから一



括管理できる仕組みが必要です。これらの要件を満たしたのはFortiGateでした」と話す。

他社の無線LANシステムは別にファイアウォールを導入する必要がある。FortiGateはセキュリティ機能を備えながら、他社の無線LANシステムに比べ、約半額程度だったという。FortiGateとFortiAPを組み合わせ、セキュアな無線LANを簡単かつ低コストに構築できる利点がある。

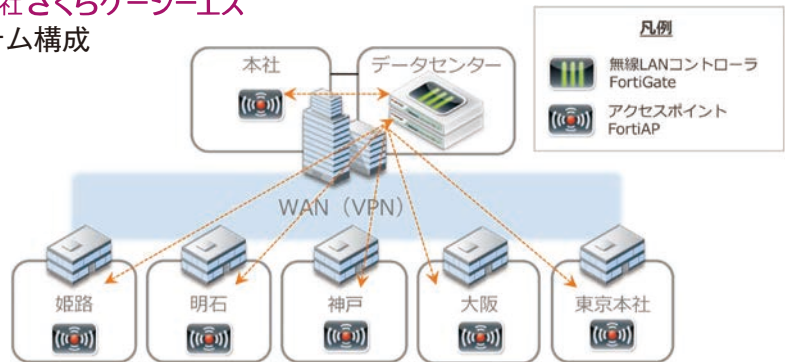
同社では、無線LANのネットワーク設計をはじめ、APの電波干渉などを調べるサイトサーベイを実施。そして、本社や東京本社など6拠点にAPを配置している。データセンターに冗長化されたFortiGateを設置し、WANを介して各拠点の無線LANアクセスポイントとトンネルモードで接続。クライアント端末 (iPad) からの通信を集中制御する仕組みを構築。無線LANの構築から稼働まで、わずか1カ月の「早期導入」を実現しているという。

無線LANの活用でワークスタイルを変革

無線LANのビジネス利用に欠かせないセキュリティの確保では、MAC認証で許可された端末かどうか認証するとともに、ファイアウォールのポリシーに基づき、iPadで利用できるサーバー接続を制御している。例えば、iPadからは会議資料や営業用資料などが保存されたファイルサーバーや、グループウェアのみアクセスできるといった具合だ。

セキュリティの確保とともに、無線LANを利用するユーザーの利便性の確保もポイントになる。さくらケーシーエスではAPのSSIDを全社共通にすることで「他の拠点に出張する際にも、自身のiPadからグループウェアに簡単にアクセスでき、業務効率化に役立っています。また、神戸から

株式会社さくらケーシーエスシステム構成



各拠点のAPを一括管理できるので、運用管理に関わる負荷軽減とコスト削減にも効果的です」と石若氏は導入効果を述べる。同社では、50人規模の大人数の会議などで一斉にサーバーへ接続することがあり、レスポンス低下の懸念もあったが、FortiOSの負荷分散機能を利用し、「大人数のペーパーレス会議を同時に開催しても、参加者は快適に無線LANを利用できます」と伊藤氏は評価する。

また、同社では外出する機会の多い営業部門などで、今後フリーアドレスを採用する構想もあり、無線LANを活用したワークスタイルの変革を進めていく意向だ。現在は有線LANで接続している社内のノートPCを無線LANでも利用できるようにする考えもあるようだ。

無線LANを利用する端末とFortiAPの拡張に合わせ、APの集中管理台数が多い「FortiGate-300C」を本社と東京本社にそれぞれ冗長化導入する予定だという。「東京本社からの無線通信トラフィックの負荷を分散するとともに、万一、WAN回線の障害時にも東西それぞれで継続利用できます」と田畑氏は説明する。

さらに、情報戦略グループでは個人所有のスマートデバイスを活用したBYODの検証にも取り組む。「BYODに必要なセキュリティ対策には様々な方法があり、

FortiGateも選択肢の1つになります」と石若氏は見ている。BYODや無線LANに対する顧客企業の関心は高く、伊藤氏は「当社のFortiGateを利用したペーパーレス会議の活用例を紹介し、導入を検討しているお客様もあります」と述べる。社内ニーズに合わせてセキュアで利便性の高い無線LANを活用するさくらケーシーエスの動向から目が離せないだろう。

FortiAP-221B



FortiGate-100D



さくらケーシーエスのデータセンターに設置された「FortiGate-100D」。無線コントローラ機能を備え、各拠点に設置された無線LANアクセスポイント「FortiAP-220B/221B」を一括管理。クライアント端末 (iPad) の認証やサーバーへのアクセス制御などにより、セキュアな無線LAN環境を実現している。

FORTINET®

フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032

東京都港区六本木 7-18-18

住友不動産六本木通ビル 8 階

www.fortinet.co.jp/contact

お問い合わせ